

Muse Letter

No.74

February 2021

クジャクチョウ

林や草むらに近ければ住宅地でも見られるチョウです。鮮やかなオレンジと紫や黄の大きな目玉模様が私達の目を引きまます。成虫で越冬するため、春先に見られることもあります。写真は夏の手稲山での植物調査中の一コマで、クジャクチョウは私達にお構いなしてホザキナナカマドの花の蜜に夢中でした。



手稲山は大災害?が造りだした アミューズメント・パーク



写真 手稲市街から見た険しい崖(奥)と崩れ落ちた岩くず(手前)

手稲はアイヌ語の「テイネ・イ」＝「濡れている・所」を語源にしています。濡れるところ、つまり水が集まるところは、川や湖の近くなど低いところに限られます。ですから、高い山を指す地名ではありません。手稲山は、麓の地名から付けられた和名で、アイヌ語地名研究家の永田方正^{ほうせい}氏によると、本来手稲山はアイヌ語で「たンネ・うエン・シリ＝長く・悪くある・山」と呼ばれ、頂上部に続く険しい崖に由来する名前を持っていたと考えられています。

この長い崖は、今からおよそ5万年前、手稲山の山体が北側に向け山頂部付近から大きな地すべりを起こした結果、山体をつくる火成岩(安山岩)が麓に流れ下ったことにより滑落崖^{かつらくがい}と呼ばれる急な崖が造られたものです。5万年前には日本にヒトが住んでいた証拠はありません。もし、手稲山の麓に人が暮らしていたら大きな災害になっていたことでしょう。

地すべりによって形成された頂上部の急傾斜は1972年の札幌オリンピック大回転コースとして、地すべりで崩壊し下流へ流れた山体の頂部はレジャーランドとして、さらに下部に続く大きな起伏はゴルフ場として利用され、もっとも下流へ押し出され堆積した岩くずは麓で緩やかな傾斜を形成し、初心者向きのスキー場(千尺コース)となりました。今や手稲山は一年を通し



写真 滑り落ちた土砂(ゴルフ場の大きな起伏)

で“永く・良い・山”として多くの市民に愛され、親しまれています。

さらに、地すべりによって側方にできた北側の崖にそって軽川が、南側の崖に沿って三樽別川が流れ、下流で星置川とともに扇状地を形成し、多くの人達に生活の場を提供しました。扇状地は本来水はけのよい乾いた土地を提供しますが、手稲の場合は海岸線に近く、標高の低い場所に扇状地が形成されたため、乾いているはずの扇状地が湿地に接し、濡れている状態になったことから、この特異な現象を取り上げ「テイネ・イ」＝「濡れている・所」と名付けたのではないのでしょうか？

長く険しい崖の反対側にあたる南側の頂上部付近には、“ガレ場”と呼ばれる火成岩が崩れ落ちた岩場が見られます。ここには積み重なる大きな岩と岩のすき間を気温差によって空気が通り抜ける「風穴」が多く観察されることか

ら、現在、博物館活動センターではこの風穴地の植物調査を実施しています。安山岩の大きな岩がごろごろと積み重なる手稲山のガレ場にはどのような特徴があるのか、ガレ場周辺の植物にはどのような傾向が見られるのかについて明らかにされていくでしょう。



写真 手稲山のガレ場で植物調査をする山崎学芸員

文／学芸員 古沢 仁

ホット
コラム

展示室につき
これ、なんの化石？



○月×日 展示解説員 村中 光

小学生の女の子が、「アンモナイトの一部だと思う」と持ってきてくれた小さな石。川の近くで見つけたというその石は、ギザギザとした模様があり、貝のようにも見えます。化石担当の古沢学芸員に同定してもらいました。

結果は、アンモナイトでも貝でもなく、「腕足類」の仲間でした。腕足類とは、古生代に地球上に現れた海の動物です。殻から「肉茎」という足のような部分が出て、岩にくっついたり、砂にもぐったりして生きています。

一番繁栄した時代は古生代で、札幌には古生代の地層が見えている場所がなく、化石は見つかりません。工事で運ばれてきた砂の中に混ざっていたのではないかと、いうことでした。時代と場所を越えて、一人の



写真：小学生が見つけた腕足類の化石
標本にするには「採取地」「採取日」「採取者」の記録が必要。
同定後、化石は女の子が大事に持って帰りました。

女の子の手に届いた化石。採取地や採取日を記録すると立派な標本になります。「標本」というと、針を刺した昆虫標本をイメージしませんか？他にも、化石や岩石、身近な植物も標本になります。博物館活動センターのホームページ上で公開している「おうちミュージアム」では、植物標本の作り方や工作、自然史に関するクイズやぬり絵など、楽しく学べるコンテンツを紹介しています。おうち時間のヒントに、ぜひのぞいてみてください。

コレクション クエスト

ふだん公開していない
収蔵物を紹介します。
さあ、標本の世界を冒険だ！

ウシクグはカヤツリグサ科の一年草で、川岸や水田などに生えます。小さいものでは20cmほどですが、札幌周辺では比較的栄養分の多い泥がたまった場所に多く、成長が良くなるため高さ60~70cmに達します。こうした大きな標本を台紙(およそ30cm×42cm、ほぼA3用紙サイズ)に収めるには、基本的に茎を数回折り曲げて「稲妻型」と呼ばれる形にしてコンパクトにします。

展示されている標本の作り方も想像してみると、一味違う博物館の楽しみ方が見つかるかもしれません。

文/学芸員 山崎 真実



「ウシクグ」SMAC10124

File No.10
2020年札幌市セミ調査終了!
どんなことが分かったのかな?

SMAC活動レポート

当センターで行われる、市民の自主的活動や、学校との連携など、さまざまな活動を紹介します。

令和元年から令和2年までの2カ年にわたり「札幌市セミ調査」を実施しました。この調査は、市民の皆さんとともに、札幌市内でセミの抜け殻を採集し、採集した抜け殻の情報からセミの種類や生息範囲の変化を調べることを目的にしています。

平成20年から平成22年の3カ年にも「札幌市セミ調査」を実施しており、当時と今回のセミの種類や生息域を比較することで、生息範囲の変化や環境との関係性について分析しています。

市内には10種のセミが生息している記録があり、前回の調査では7種類の抜け殻が採集され、3種類のセミは鳴き声を確認できたものの

抜け殻の発見はありませんでした。

今回の調査では、前回発見されなかったエゾチツゼ



今回発見されたエゾチツゼミの抜け殻

ミの抜け殻が南区と西区から発見されました。また、前回調査では南区真駒内公園隣接の河畔林からしか発見されなかったツクツクボウシが生息範囲を広げ公園内や他の区でも抜け殻が見つかりました。詳細については、現在分析中です。結果が楽しみです。



交通アクセス

- 地下鉄南北線「澄川駅」北出口から徒歩約10分
- 地下鉄南北線「南平岸駅」東出口から徒歩約14分

札幌市博物館活動センター information

入館料: 無料
開館日: 火曜~土曜 開館時間: 10時~17時
休館日: 日曜・月曜、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)



ホームページアクセス
二次元コード



発行 札幌市博物館活動センター

〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条15丁目1-6 Tel: 011-374-5002 Fax: 011-374-5014
Email: museum@city.sapporo.jp ホームページ: <http://www.city.sapporo.jp/museum/>



ミュージス・レターは、植物油インキおよび、環境省が定める「グリーン購入法」の適合紙を使用しています。